

Évora

について



エヴォラ

堂々としたカテドラルをトップに戴くエヴォラは、広大なアレンテージョ（Alentejo）平原から続くなだらかに傾斜した丘の上にあります。広大な外側の塁壁が歴史の中心地を守り、UNESCOによって世界遺産に指定されている貴重な文化遺産となっています。

ムーア人の占領時代に造られた狭い通りが光あふれる広場と鮮やかな対照をなすこの都市には2000年の歴史があります。紀元前59年に占領した古代ローマ帝国は、この都市を「リベラリタス・ユリア（Liberalitas Julia）」と名づけました。この期間、エヴォラ（Évora）は極めて重要な役割を担っていましたが、それは2世紀後半の立派な神殿、城壁のさまざまな部分、最近ドナ・イザベル（Dona

Isabel）と呼ばれている門、さらには現在の市議会の建物の下にある温泉など、当時の遺跡からうかがい知ることができます。

西ゴート時代（5世紀～8世紀）の遺跡はほとんど残っていません。西ゴートに続き、この都市はタリクに占領されてムーア人の時代が始まりました。その支配は12世紀のキリスト教徒によるレコンキスタまで続きました。イエボラ（Yeborah）と呼ばれるようになったこの町は、すでにムーア人の影響を確実に受けており、それはモウラリア（Mouraria）近辺に最もはっきりと見られます。

レコンキスタの後、内側と外側の城壁の間だけでなく、城壁の外側へと都市の発展が広がりました。この都市は、初代および2代目の王朝のさまざまなポルトガル国王の居住地でした。この時代、特にジョアン2世（D. João II）とマヌエル王（D. Manuel）（15世紀～16世紀）の治世下において、さまざまな王宮や記念建造物が設けられました。

通りを散策し、世界の多様な文化による影響を受けたこの都市の不思議な精神を感じ取ってください。素晴らしいレストランやバー、散歩道、美術・工芸品店、大学に通う若者の気質がすべて、過去にしっかりと根ざした現在にさらなる活力を与えています。